

去勢抵抗性前立腺癌患者の骨転移診療における血中 GDPP 測定の臨床実装

山道 岳¹⁾、加藤大悟¹⁾、宮城洋平²⁾、植村元秀³⁾、野々村祝夫¹⁾

- 1) 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（泌尿器科）
- 2) 神奈川県立がんセンター 臨床研究所
- 3) 福島県立医大 泌尿器科

【目的】前立腺癌の骨転移診療において測定が有用とされる血液バイオマーカーは存在しない。そこで先行研究で我々が前立腺癌細胞と骨芽細胞と破骨細胞から分泌されることを見出した GDF15 propeptide (GDPP) の測定が、腫瘍横断的な骨転移診断に有用であるかを検討することを目的とする。

【方法】骨転移を有する mCRPC 患者 80 例を含む 185 例の血中 GDPP 値を測定し、骨転移に対する診断とモニタリングにおいて既存の血液バイオマーカー (ALP、LDH、PSA、OC、BAP、PINP、TRACP 5b) との臨床的有用性を BSI を用いて比較する。

【概要】GDPP の骨転移診断能は既存の血液バイオマーカーよりも高く (AUC=0.92)、BSI と最も強く相関していた ($r=0.66$)。さらに、経時的に採血と BSI 測定を行った骨転移を有する mCRPC 患者 22 症例において、 Δ BSI と各種バイオマーカーの相関を調べたところ Δ GDPP が最も強く相関していた ($r=0.63$)。

【成果】骨転移を有する mCRPC 患者において、血中 GDPP は骨転移の診断だけでなくモニタリングにおいても既存の血液バイオマーカーよりも有用である可能性が示唆された。